

学修成果に関する評価項目一覧

	項目	I	II	III	IV	V
1	赤十字の基本原則の理解(規範の行動化)	赤十字の基本原則について述べるできない。	赤十字の基本原則について述べるができる。	指導の下に赤十字の基本原則に基づく行動をとることができる。	状況に応じて赤十字の基本原則に基づく行動をとることができる。	自ら率先して赤十字の基本原則に基づく行動をとることができる。
2	倫理観	人間としての尊厳と権利を尊重・擁護する観点から、倫理原則を説明できない。	人間としての尊厳と権利を尊重・擁護する観点から、倫理原則を説明できる。	整えられた条件下で、人権を擁護する行動をとることができる。	状況に応じて、当事者主権の立場から人権を擁護する行動をとることができる。	自ら率先して専門的立場から看護や生活の中で人権を擁護する行動をとることができる。
3	多様性理解	多様な文化背景・価値観を持つ人々がいることを受け入れることができない。	多様な文化背景・価値観を持つ人々がいることを受け入れることができる。	多様な価値観に関心を持ち、自分の価値観との相違を受け入れることができる。	多様な価値観を持つ人々に対し、その価値観を尊重しながら、交流できる。	人道の精神に基づき、多様な価値観を尊重しながら共感的に関わることができる。
4	語学力	与えられた課題に対して、外国語で読み書きすることができない。	与えられた課題に対して、外国語で読み書きすることができる。	与えられた課題に対して、外国語で聞き話すことができる。	状況に応じて、外国語を用いたコミュニケーションをとることができる。	自ら率先して看護や生活の中で語学力を活用できる。
5	共感的態度	他者の言動や態度、感情に関心を示すことができない。	他者の言動や態度、感情に関心を示すことができる。	自分の感情をコントロールし、他者の立場に立って考えることができる。	他者の言動や態度、感情を理解した上で、共感を示すことができる。	他者の言動や態度、感情を受容し、思いやりある行動をとることができる。
6	コミュニケーション(自己表現)力	他者との関わりの中で、自己と他者の相違を理解できない。	他者との関わりの中で、自己と他者の相違を受け入れることができる。	自分の適性や能力を把握し、自信や自己肯定感をもつことができる。	言語的及び非言語的な表現方法を活用し自分の思いを適切に伝えることができる。	意図的に治療的コミュニケーション技術を用いて、援助的人間関係を構築できる。
7	専門知識力I(対象理解)	一人の人間が身体的・精神的・社会的な側面をもつことを説明できない。	一人の人間が身体的・精神的・社会的な側面をもつことを説明できる。	一人の人間の身体的・精神的・社会的な側面からの理解を生活過程と関連づけることができる。	一人の人間の生活過程・家族背景を踏まえて、全体像を描くことができる。	一人の人間は分けることのできない統一体で、変化する存在であることを説明できる。
8	多視点統合力	看護現象は多様で複雑な側面を持つことについて説明できない。	看護現象は多様で複雑な側面を持つことについて説明できる。	演習において、看護現象の多様で複雑な側面を関連づけて説明できる。	実習において、看護現象の多様で複雑な側面を関連づけて行動できる。	実習において、自ら率先して看護現象の多様性・普遍性を追求できる。
9	問題発見・解決能力	必要な情報収集を行い現状を理解し、生じている問題に気づくことができない。	必要な情報収集を行い現状を理解し、生じている問題に気づくことができる。	現状を分析し、問題解決のための方法を考えることができる。	問題解決のための計画を立てて実施し、必要に応じて解決方法を修正できる。	問題解決の過程を振り返って考察し、次の問題発見・解決に活かすことができる。
10	専門知識力II(看護過程)	看護の方法としての看護過程について説明できない。	看護の方法としての看護過程について説明できる。	演習において、看護過程を用いて情報を収集し、アセスメントを行うことができる。	実習において、看護過程を用いて看護診断を行うことができる。	実習において、看護過程を用いて看護実践を行い、評価することができる。
11	論理的思考力	他者の意見や物事を客観的な視点で捉え、事実と意見を区別できない。	他者の意見や物事を客観的な視点で捉え、事実と意見を区別できる。	客観的な事実から問題の原因について仮説を立てることができる。	仮説に対し、論理的な意見や結論を導き出すことができる。	導き出した意見や結論について、様々な視点から批判的な検証方法を考えることができる。
12	専門知識力III(看護技術)	原理・原則に基づき基礎看護技術を説明できない。	原理・原則に基づき基礎看護技術を説明できる。	演習において、基礎看護技術をシミュレーション事例へ適用して実施することができる。	実習において、健康問題に対する人間の反応を把握し、基礎看護技術を対象に実施することができる。	実習において、基礎看護技術を対象の個性に合わせて創意工夫して実施することができる。
13	安全管理能力	事故防止や事故発生メカニズムに関心を持ち、環境や作業上の危険を予測できない。	事故防止や事故発生メカニズムに関心を持ち、環境や作業上の危険を予測できる。	危険予知トレーニングを通して、日常生活の中でリスク感性を身につけることができる。	予測される危険に対し、事故発生を防止するための適切な対策について考えることができる。	自ら率先して安全管理のための行動をとり、アクシデントの防止策を考えることができる。
14	専門知識力IV(地域活性化/対象と役割の拡大)	地域社会における保健・医療・福祉の分野で看護が担うべき役割を説明できない。	地域社会における保健・医療・福祉の分野で看護が担うべき役割を説明できる。	看護の対象を個から集団に拡張して考えることができる。	演習において、地域の特性理解と地区診断ができる。	実習において地域の特性理解と地区診断を行い、多職種連携の必要性を説明できる。
15	社会的能動性/協調性	社会・集団の中で自分の果たすべき役割を考慮することができない。	社会・集団の中で自分の果たすべき役割を考慮することができる。	自分の属する集団の中で、他者と協力しながら協調的に行動することができる。	自分の属する集団・組織の中で、リーダーとしての役割を遂行することができる。	状況に応じて、自ら集団・組織を作り、他者と協調的に活動することができる。
16	知的好奇心	社会現象や授業内容に関心を持ち、意欲的に学ぶことができない。	社会現象や授業内容に関心を持ち、意欲的に学ぶことができる。	既修の学びを発展させ、新しい知識・能力の修得に関心を持つことができる。	既修の知識・能力を看護や生活と関連づけ、活用しようとする意欲を持つことができる。	既修の知識・能力を発展的に活用し、社会の中で役立てようとするすることができる。
17	自律性	与えられた課題を理解し責任を持って取り組むことができない。	与えられた課題を理解し責任を持って取り組むことができる。	与えられた課題に見通しをもって取り組み、期限に間に合うように実行できる。	自分の責任を自覚して必要な目標を設定し、実現のために計画を立てることができる。	目標の実現に向けた計画を主体的に設定・立案し、積極的に遂行できる。
18	情報収集・活用力	PC等を活用して、メディア等、多様な情報源から必要な情報を入手できない。	PC等を活用して、メディア等、多様な情報源から必要な情報を入手できる。	多様な情報の中から信頼でき、かつ目的に合った情報を取捨選択して収集できる。	PC等を活用して収集した情報を整理・分析し、自分の考えの根拠とすることができる。	図表化するなど、収集した情報を効果的に活用して自分の考えを分かりやすく説明できる。
19	創造的思考力	幅広い教養や知識を身につけようとする意欲をもつことができない。	幅広い教養や知識を身につけようとする意欲をもつことができる。	既修の知識と関連づけて物事を考えることができる。	既修の範囲を再構成し、柔軟に物事を考えることができる。	既修の範囲にとらわれずに物事を柔軟に考え、新しい発想を出すことができる。
20	国際性/異文化理解	書物やメディア等を通じて異文化に触れ、自分が所属する文化との相違を説明できない。	書物やメディア等を通じて異文化に触れ、自分が所属する文化との相違を説明できる。	異文化と自分の所属する文化における相違を深く理解し、受け入れることができる。	異文化を体験的に理解した上で、相違を受け入れ、尊重することができる。	異文化を理解・尊重した上で、国際的視野に立って看護について考えることができる。
21	意見交換・調整力(ニーズ把握力)	議論や話し合いの場で他者の発言に関心を持ち、受け入れることができない。	議論や話し合いの場で他者の発言に関心を持ち、受け入れることができる。	他者の発言の意図を理解した上で、自分の考えを伝え、意見交換できる。	他者に内在している思いの表出を促し、意見交換の場をとりまとめて円滑に進行できる。	健康ニーズを把握するために、意見交換に意図的に介入し、相互理解や合意形成を図ることができる。